



◎特集

この夏、省エネ生活を考える

まちのエコ× わが家のエコ



今年の夏こそ、 省エネ生活をスタート

国内の電力供給状況の変化によって、現在、これまで以上に発電による温室効果ガスの排出量が増大しています。一年で最も多くの電力を消費する夏。単に「電力不足だから」というのではなく、深刻な地球温暖化をこれ以上進行させないために、今こそ省エネ生活を始めましょう。

電力不足の夏

震災以降、日本中で毎日の節電が求められています。特にこの夏の電力不足は深刻で、各電力会社が利用者に節電を依頼。四国電力も5月18日付けで、「特に供給が厳しい7月2日～9月7日の間、猛暑であった一昨年と比べて7割以上を目標とする節電をお願いする」と発表しました。

新聞やテレビでは連日のように節電に関する情報を発信。さまざまな業界から多様な節電グッズが販売さ

れ、人々の節電意識もかつてないほどの高まりを見せています。

けれども私たちは、単に「電力不足だから節電する」という考えで良いのでしょうか。

増大する温室効果ガス

国内の原発が稼働停止状態にある現在、電力の多くは火力発電によって賄われています。これにより石油や石炭など化石燃料の消費が増え、二酸化炭素の排出量が増加。新聞などの報道

地球温暖化の脅威

地球温暖化は、地球規模の気候の変動をもたらします。すでに兆候は現れ始めており、近年日本でも被害が巨大化している台風や集中豪雨、猛暑などの異常気

象も、その影響と考えられています。

温暖化の主な原因は、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの増加です。地球は太陽光によって暖められ、その熱の一部を吸収し、残りを放出しながら温度を保っています。しかし温室効果ガスが増え過ぎると熱が放出されにくくなり、気温が上昇し、地球全体の気候が変化します。これが地球温暖化です。

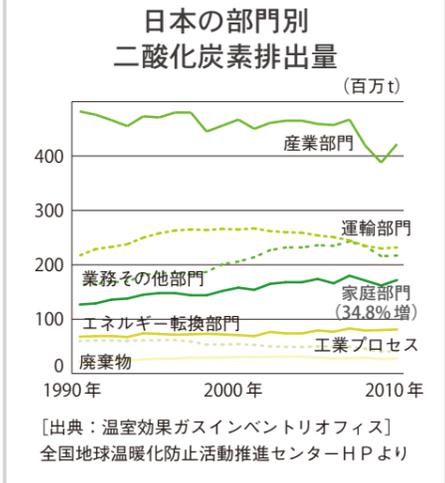
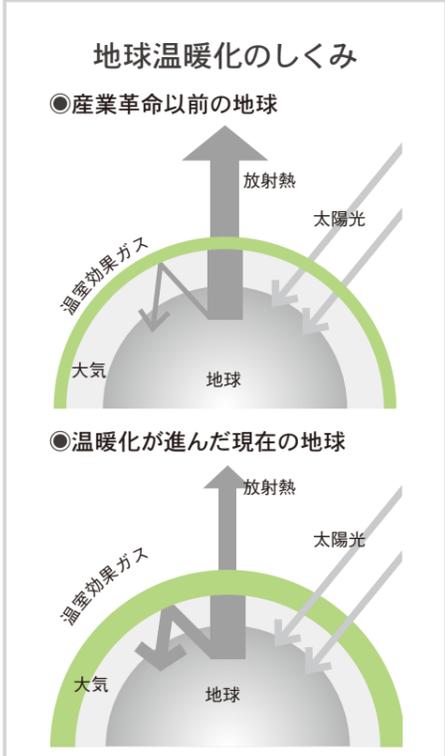
二酸化炭素の排出が急激に増え始めたのは、18世紀の産業革命以降。さらに20世紀に入って、その量は急激に増加しました。

環境問題は、これまでの人類の活動によって引き起こされたもの。それを解決することができるとも、私たち人間の行動でしかありません。持続可能な地球環境を守っていくために、一人一人の取り組みが求められています。

今こそ、省エネ生活

内子町は「キラリと光るエコロジータウン内子」をキャッチフレーズに掲げ、いち早く、町と住民が連携しながら環境に優しいまちづくりに取り組みできました。そして、その取り組みの輪は少しずつ広がっています。

豊かな自然に恵まれ、美しい景観が残る内子町。このふるさとを未来へと守り伝えるために、この夏、これまで以上に地球温暖化を防ぐという意識を持って、省エネ生活をスタートしましょう。

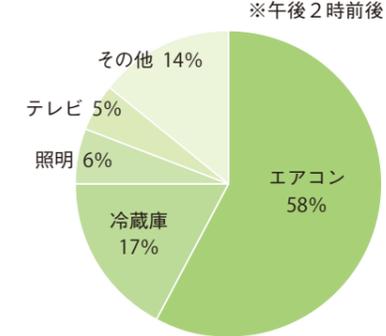


□家庭での具体的な節電方法と効果

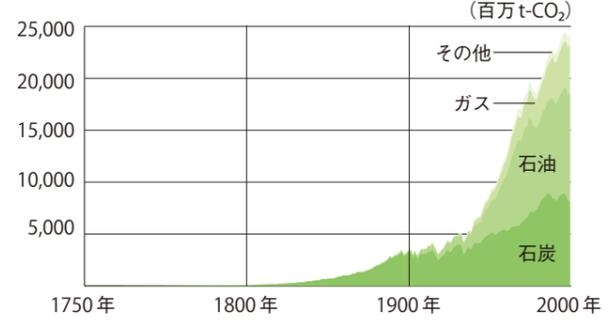
節電方法	節電効果
エアコン	室温は28度を目安にする。(設定温度+2度) 10%
エアコン	エアコンの使用台数を減らす。(350wのエアコンを2台から1台に減らした場合) 30%
エアコン	「すだれ」や「よしず」などで日差しをカットする。 10%
冷蔵庫	設定温度は「強」から「中」に変え、扉を開ける時間をできるだけ減らし、食品を詰め込まないようにする。 2%
照明	不要な照明を消す。 5%
テレビ	省エネモードに設定し、使用時間を3分の2に減らす。 2%
炊飯器	早朝にタイマー機能で1日分をまとめて炊き、冷蔵庫などに保存する。 2%
待機電力	本体の主電源を切る。長時間使わない時はプラグを抜く。 2%

◎四国電力「夏季の節電・省エネルギー対策」より
四国電力は、7月2日～9月7日(8月13～15日を除く平日の午前9時～午後8時)の間、22年比7%以上の節電を目安に、無理のない範囲で協力を呼びかけています。

□一般住宅の電力消費の内訳



□燃料別に見る世界の二酸化炭素排出量



注 排出量の単位は、百万トン二酸化炭素換算
[出所：オークリッジ国立研究所]
全国地球温暖化防止活動推進センターHPより <http://www.jccca.org/>

□四国電力の電力供給実績(24年5月分)

	電力量	前年比	備考
原子力	0 (0)	0.0	出水率 72.0%
水力	249 (11)	81.1	
火力	2,049 (87)	115.6	
新エネ	37 (2)	98.3	
発受電計	2,335 (100)	78.6	
その他	50		
供給計	2,385	80.3	23年5月出水率 99.5%

注1 新エネには西条バイオマス(100万kwh)を含む。
注2 ()内は構成比
注3 四捨五入の関係で合計が合わないことがある。

[出所：四国電力HP 平成24年5月分電力需給状況]
http://www.yonden.co.jp/press/re1206/1180590_1961.html



まちのエコ

町は「エコロジータウン内子」の実現を目指し、率先して取り組みを進めるため、エコオフィスを策定して町関連施設から排出される温室効果ガス(二酸化炭素)の削減に努めています。23年度は前年度比13割の削減となりました。

23年度の取り組み

内子町は「キラリと光るエコロジータウン内子」をキャッチフレーズとしたまちづくりを推進しています。この中で、町は率先して取り組みを進めるため「内子町エコオフィスプラン」を策定。省エネに取り組み、町関連施設から排出される温室効果ガスの削減に努めました。

23年度からは、第3次計画に基づいた取り組みを開始。計画期間は23～27年度の5年間で、22年度を基準年度として、温室効果ガスの総排出量を27年度までに5割削減することを目標と

しています。23年度の総排出量は、22年度に対し13・1割の削減となりました。ただしこれは電気の二酸化炭素の排出量を算出するための係数に大幅な変更があったためです。項目別に見ると一部で達成できていません。

電気使用量は、23年度に1割の削減を目標に掲げましたが、実績は0.8割にとどまりました。町民会館の冷暖房設備を灯油から電気を利用する機器に変更したことが要因と考えられます。今後、さらに各職場での節電の取り組みを推進するとともに、LED電球への切り替えや自然エネルギーの導入などを検討し、一層の

削減を目指します。

一部のバスや公用車の燃料である軽油の購入量は増加しました。運行便の増加などによるもので削減は容易ではありませんが、エコドライブの徹底によりできる限りの削減を図ります。灯油の購入量も増加しています。またLPGは0.1割の削減にとどまりました。これらは施設利用の増加などに伴うものと考えられます。利用者への協力の呼びかけなどにより、少しでも削減目標に近づけられるよう取り組みます。

エコオフィスからエコタウンへ

町はエコオフィスプランの推進を通じて、行政から各家庭へと取り組みを広め、町全体の運動へとつなげることを目標としています。

そのために、グリーンカーテンコンテストや省エネナビモニターなどの事業を通して、町民の皆さんと一体となった取り組みを行っています。一人一人の小さな節約が大きな力になります。一人でも多くの力が必要です。

各家庭での環境に優しい取り組みを応援

●グリーンカーテンコンテスト
室温上昇を防ぎエアコンなどの電力消費を抑制する効果があるグリーンカーテン。町は毎年コンテストを開いて家庭や施設での実施を呼びかけ、苗の無料配布も行っています。



●省エネナビモニター
省エネナビは、電気の使用量を計測しリアルタイムに表示する機器。見えない電気の使用量を可視化することで、節電意識の高まりにつなげる目的から、モニターを募集し、一定期間、機器を無償で貸し出しています。(関連記事：19ページ「くらしのエコロジー」)

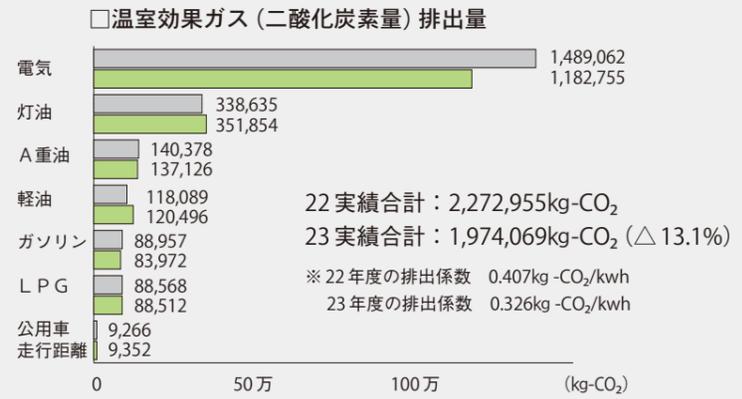
エコオフィスの取り組み状況を監査

平成20年まで町の幼稚園に勤務し、エコオフィスに取り組んでいました。そして23年度、今度は町民監査委員として、取り組み状況を確認する立場を経験しました。一番に思ったのは、取り組み始めたころにあった「やらされている」という気持ちの薄れ、「当たり前」という意識が変わっているということ。特に各職場の

トップの意識変化と、職員の前向きな姿勢を感じました。またそれぞれに独自の取り組みや工夫があり、気付かされるものがたくさんありました。このような町民監査委員をより多くの方が経験することで、思いや気付きを共有し、エコに対する町全体の意識の変化につながっていくことを期待します。



ようこ 藤原陽子さん(63)
=小田下=

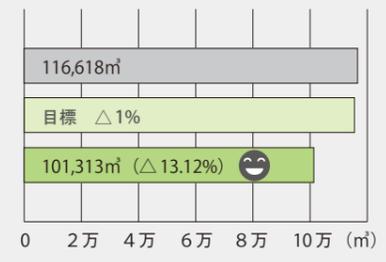


23年度エコオフィス取り組み実績

【問い合わせ】環境政策室
☎0893(44)6159



水道使用量



23実績：101,313m³ (△13.12%)

コピー用紙購入量



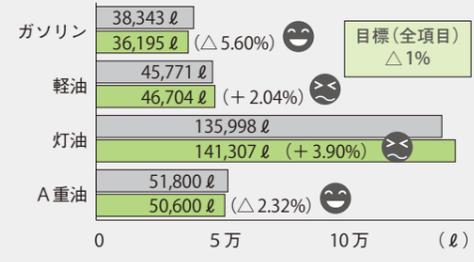
23実績：18,532kg (+18.43%)

ごみ排出量



23実績：22,486kg (△15.16%)

ガソリン・軽油・灯油・A重油購入量



23実績：ガソリン36,195ℓ (△5.60%)
軽油46,704ℓ (+2.04%)
灯油141,307ℓ (+3.90%)
A重油50,600ℓ (△2.32%)

LPG購入量



23実績：29,504m³ (△0.06%)

電気使用量



23実績：3,628,804kwh (△0.83%)

注) 23年度から「みどり苑」「神南荘」「内子フレッシュパークからり」「道の駅せせらぎ」を対象施設に追加しました。22年度の実績値は上記4施設を含んだ数値となっています。

わが家のエコ

省エネの方法は無限にあります。大切なことは、一人一人の節約の積み重ね。自分たちにあった方法で省エネ生活をスタートしている皆さんを紹介しします。



電気の使い方を直し 効率的なエコライフ



福永浩三さん(44)・厚子さん(32)・令くん(4) =内子19第2 =

3年前の自宅の新築を機に省エネを意識するようになったという福永さん。自宅は太陽光発電、深夜電力を使った給湯システム、遮熱・断熱効果のある窓ガラスなどを取り入れた省エネ住宅です。

今年4月、省エネナビモニターに応募。現在、自宅にナビを設置しています。「ナビは電力の使用量をグラフで表すので、例えば電子レンジを使ったり、お湯を沸かしたりするとグラフが跳ね上がります。以前はあまり電気を使っていたという実感があったけれど、最近は、今どのくらい使っているのかナビを見なくても把握できるようになりました」と話します。

以来、とりあえず使わない電気は消す、長い時間つける居間の照明をLEDに変えるなどの節電を実行。さらに炊飯器や洗濯機などのタイマー機能、市販のタイマーコンセントを活用してなるべく深夜電力を利用するなど、使い方にも気を配っています。

「しんどいのは続かないから、苦になる節電はしていません。その代わり便利な機能を生かし、毎日の生活に取り入れられる節電をしています」と福永さん。このごろでは4歳の令くんも、無駄な電気がついていたら「消して」と言うそうです。無理なく続けることで、省エネライフが家族のスタイルになっていきます。

無理なく続ける

福永さんのひと工夫 eco



●タイマーコンセントを活用
設定した時間帯のみ通電し、それ以外は自動的に遮断するコンセント。福永さんはパソコンに使用。深夜電力でバッテリーを充電し、日中はそのバッテリーで駆動しています。待機電力のカットやピーク時電力の分散に効果的です。



●窓ガラスとカーテンで遮熱
開閉しなくても、夏は外の熱の7割が入り込む窓。福永さん宅では、ガラスの間に金属の膜が挟まれていて光や熱を反射させる窓ガラスを採用。さらに内側に遮熱効果のあるカーテンを取り付けることで一層冷暖房効率をアップしています。

自然と仲良く暮らす



田んぼに囲まれた日当たりの良い一軒家に暮らす岡田さん。南向きの大きな窓から日差しが差し込み、日中はほとんど電気をつけないことがありません。一方で、窓を開ければ、水が張られた田んぼから家の中へと涼しい風が吹き抜けます。「クーラーも全然使わないので取り外して人に譲ってしまいました。よほど暑いときは扇風機をつけるけれど、普段は自然の風だけで十分」と岡田さん。日頃から、テレビは見たい番組

のときだけつける、洗濯機、炊飯器、電子レンジなどの電化製品も、使う時以外は全てコンセントからプラグを抜くなどの省エネを徹底していますが、「節電が呼びかけられるようになったか」という訳ではなく、ずっと前から、もう習慣になっていること。特別に意識してやっていることはないんですよ」と話します。

岡田さんは勤めを定年退職した後、環境NPOサン・ラブの活動に参加。えひめAIIーを使ったぼかしや廃食油キャンドル、石けんなどを作り、自宅でも積極的に利用しています。例えば、ぼかしは生ゴミと一緒にコンポストに入れて畑の肥料に。さまざまな野菜を育てていますが、農薬や化学肥料は一切使ったことがなく、安心して食べられると言います。

自然の恵みを受けながら 自然に優しい暮らしを習慣に

岡田百合子さん(67) =柿原=

岡田さんのひと工夫 eco



●廃食油を使ってキャンドル作り
古くなった天ぷら油に市販の凝固剤を加え、オレンジの皮やガラスの器などに流し込み、芯を挿して固めます。廃油のリサイクルと節電で、ダブルのエコ。岡田さんは、毎年開かれる環境子ども会議で、作り方の指導も行っています。



●コンセントを抜いて待機電力をカット
炊飯器をはじめ電子レンジ、洗濯機などほとんどの電化製品は、使うときだけコンセントを差し込み、使い終わったら抜いているという岡田さん。家庭の消費電力に占める待機電力の割合は約6%。積み重ねれば大きな効果を生みます。

永岡さんのひと工夫 eco



◎「よしず」や「すだれ」を活用
日当たりの良い窓の外に設置することで日差しを遮断。窓を開ける時は、よしずに水をかけると涼しい風が通り抜けてより快適に。



◎夏は天然素材のい草の敷物に
永岡さん宅では、夏は敷物をい草のラグに交換。い草は断熱性と保湿性に優れるため涼しく、香りによる癒し効果もあるそうです。

離れの土間に七輪を出し炭火でとうもろこしを焼く永岡ヒフミさん。永岡さんはずっと以前から、調理の際によく七輪を使っているそうです。特にフキやタケノコを炊くときは必ず七輪を利用。「長い時間火にかけるし、ガスがもったいないから」と言って笑います。でも七輪の上でコトコト煮た方が、味がしっかりしみ込んでおいしくできるので。とか。節約しながらおいしく作る、昔からの暮らしの中で、自然に身に付いた知恵です。

「夏になると、窓の外に「よしず」や「すだれ」を出し、部屋の敷物をい草のものに交換。朝起きたら、まず窓を開けて朝の涼しい空気を家中に巡らせ、山水を使って野菜や花に水をやりませう。昔からの当たり前の暮らしは、おのずと「必要以上に電気を使わない暮らし」になっていきます。そんなヒフミさんと夫・秀行さんが暮らす家に2年前、松山市で生活していた娘のるみこさん夫妻と3人のお孫さんたちが越してきました。それまで七輪も見ることがなかったという隆太郎くんたち。節約を意識したこともなく、始めは驚くことが多かったそうです。るみこさんは、「両親はいつも口癖のように「もったいない」と言っています。正直、それを口うるさく思うこともありましたが、いつの間にか子どもたちも、こまめに電気を消したりコンセントを抜いたりするようになりました」と話します。「両親を見てみると、とにかくものを粗末にしない」ということに気付かされたそうです。それはもちろん電気だけでなく、新聞紙や空き容器なども、野菜を包んだり料理のお裾分けを入れたり、いろいろな用途に再利用。私も包装紙や紙パックを買わなくなりました」とるみこさん。ヒフミさんたちが昔から当たり前に行っている、ものを大切にしている暮らし。そこには、今の私たちの生活を見直すヒントがたくさんあるようです。

エコロジータウンへの道③

まちのエコ×わが家のエコで
エコロジータウンをつくろう

福島原発の事故以降、至る所で脱原発が叫ばれています。そして再生可能エネルギーなど、新しいエネルギーの導入が検討されています。しかしこれは、あくまで「使う」ことを意識した考え方。「使わない」ことに知恵を集めれば、もっと効果的な節約を進めることができるはず。節約の方法は無限にあります。それぞれに合った方法を見つければ、節約は、ただ我慢だけを強いられるものではなく、心が豊かになる暮らしをつくり出すきっかけにもなります。

電気はもちろん、石油、ガス、水、水、ガスなど、さまざまな資源を節約することは、地球を守ることに、引いては私たち自身の暮らしを守ることに繋がります。町も、人も、力を合わせて、地球にも私たちにも優しいエコロジータウンを築いていきましょう。

昔ながらの
暮らしを見直して
おばあちゃんの「もったいない」には
エコロジーな暮らしのヒントがいっぱい



七輪でとうもろこしを焼く永岡ヒフミさん(71)と、焼きたてを頬張る孫の木下隆太郎くん(12)・一郎くん(9)・裕貴くん(6)＝日之地＝